

## アワノメイガ

- ・7月上旬ごろ発生し雄穂に食入
- ・大きく育った幼虫が茎や俵に孔をあけて食入



幼虫

雄穂が枯れて折れる

茎や子実に孔が開く

## ヨトウムシ類

- ・6月中旬から7月上旬ごろ葉に発生
- ・大きく育った幼虫が俵も食害する



幼虫

葉を集団でかすり状に食害

葉に大きな食害痕

## オオタバコガ

- ・7月中旬ごろから発生
- ・俵の先端を食害しながら成長



幼虫

俵の先端を旺盛に食害

## アブラムシ類

- ・5月中旬から収穫期まで有翅虫が飛来
- ・雄穂出穂期に爆発的に増殖



有翅虫

## すす紋病

- ・生育後半に肥料が切れ気味になると発生しやすくなる
- ・前年度の発生圃場では続けて出やすい



病害虫の発生消長

ヨトウムシ類

アワノメイガ

オオタバコガ

アブラムシ類

すす紋病

雄穂出穂期

絹糸抽出期

収穫期



5月

6月

7月

8月

## スイートコーンの生育ステージ

# アワノメイガ

## ● 雄穂への食入

幼虫は上位葉を食べながら出穂前後の雄穂に入り込みます。



葉の食害痕は  
小さく目立たない



出穂中の雄穂への食入



大きくなった幼虫は出穂した雄穂から  
茎や雌穂へ散らばります。



雄穂の根本に食入した場合、  
穂が枯死して折れます。

## ● 茎への食入

大きくなった幼虫は茎に食入し、内部を食害します。食入部位は節間の付け根が多く、孔と虫糞がみられます。被害を受けたとうもろこしは孔より上の部分が枯死します。



食入孔



孔から出た虫糞



茎の内部の幼虫



食入孔から腐敗

## ● 雌穂の被害

雌穂へは先端から絹糸を食べながら食入するほか、俵の側面や根本からも皮に穴をあけて食入します。食入孔から俵全体が腐敗することもあります。



先端からの食入



皮に孔をあけ食入



## ● 幼虫の特徴



頭全体が黒く、体は白っぽく紡錘形です。

# オオタバコガ

## ● 雌穂先端の食害



オオタバコガの幼虫は葉や子実を食害しますが、卵が1個ずつ産みつけられるので、幼虫が小さいうちは被害が目立ちません。大きく育った幼虫は虫糞を出しながら盛んに摂食します。雌穂には先端から侵入し、絹糸から先端部の子実まで食べつくします。

## ● 幼虫の特徴



体色は緑色から茶褐色まで様々です。背中中の毛の根本の黒い斑点が目立つことが多いです。背中には顆粒状の模様と、真ん中に白い線とが見えます。

# ヨトウムシ類

1か所に産みつけられた大量の卵（卵塊）からたくさんの幼虫が発生し、葉を集団で食害します。



葉表は白くかすり状に



葉裏には幼虫の集団

幼虫はある程度大きくなるとほ場に散らばり、新鮮な部位を食害します



葉にかじったような大きな食害痕

大きく育った幼虫は雄穂や雌穂を食害します。雌穂には先端から食入します。

雄穂



雌穂



● 木曾で見られたヨトウムシ類

アワヨトウ

ヨトウガ



頭の正面に2本の黒帯



# アブラムシ

有翅虫では場に飛来し、無翅虫で増殖します。無翅虫は全て雌で、交尾せずに自分のコピーで増殖する（クローン）ので、一度好適な条件になると爆発的に増殖します。とうもろこしでは特に雄穂が出穂すると発生が多くなります。木曽地域では5月中旬ごろから収穫終了まで、継続して有翅虫の飛来がみられます。



有翅虫



雌穂の被害



無翅虫

# 番外:ウワバ

ハクサイなどでみられるウワバもトウモロコシを食害します。葉を少し食べる程度で、子実の被害は少ないようです。



ウワバは後ろ脚（腹脚）が2本  
ヨトウ、アワノメイガ、オオタバコガは4本



ウワバによる葉の食害

# すす紋病

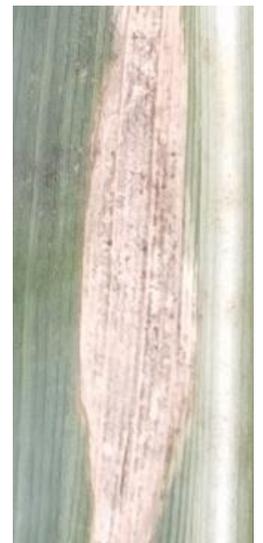
はじめは維管束方向に細長い小さな病斑で、病勢が進むと紡錘型の大型病斑を形成します。大型病斑の中にはすす状のカビがみられます。前年の発生圃場では残渣に胞子が残っているので、続けて発生しやすくなります。出穂後、生育期の後半の肥料切れや、降雨が発生を助長します。



初期病斑



病勢が進んだ大型病斑



病斑にみられる  
すす状のカビ